

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2023年 助成団体活動成果レポート

ソーシャルビジネス部門

最優秀賞

株式会社ユカリエ

宮城県仙台市

プロジェクト名

ジーバーFOOD

■地域の課題

高齢化が進み、働き手不足が深刻化している地域において、シニアが「食」を通じて活躍する場を手にし、地域に美味しい料理と笑顔を届けることで、地域全体を元気にしていこうという思いで始まったプロジェクトです。

■当団体の紹介

不動産事業や高齢者の生活サポート事業の他、空きテナントを活用し、シニアが作った健康手作り弁当を現役世代に届ける配食事業「ジーバーFOOD」を展開。今回、ジーバーFOODに隣接するスペースを活用し、新たに「(仮称)ジーバー食堂」をオープンさせ、地域における多世代間のコミュニティ創出を目指します。





プロジェクトの概要

■背景・目的は？

シニア世代が社会の負担になるのではなく、社会を支える力となるよう、生きがいを生み出しながら、地域の中で持続可能に活躍し続ける環境や仕組みを作っています。

■具体的な活動は？

本助成時に計画していた「食堂」については、当初からの拠点としていた太白区長町の拠点スペースを活用して行う予定でした。しかし、近隣から「うちも場所はあるけれど、人がいないから食堂をやってほしい」という声が寄せられたことを受け、別の拠点にて運営しています。

具体的には、仙台市若林区六丁の目にある印刷工業団地組合の社員食堂を運営、加えて、宮城県富谷市の空きテナントを活用して食堂を運営しています。これまでに延べ138名のシニアが活動に参加し、シニアの美味しい手料理を働く人や地域住民に提供しています。

テレビや新聞でも多数取り上げていただきました（NHK、河北新報等）。

また、活動を進める中で「近隣の飲食店も働き手不足で悩んでいる」という現状に気づきました。そこで、シニアが仕込みを応援することで近隣の飲食店の活動をサポートしていこうという話になり、活動の発展系として「本当に美味しい応援隊」という新しい事業をスタートさせました。これにより、自社のみならず、地域全体の食産業を盛り上げる取り組みに精進しています。



社員食堂を運営



美味しい手料理を提供



地域の健康づくりにも貢献



シニアの生きがいにも

■活動の成果は？

宮城県内でこれまでに累計138名のシニアが活動に参加しました。

参加したメンバーからは「元気になった」「病院に行く回数が減った」といった声が多く聞かれるとともに、シニアのご家族からも「これまでは暗かった母が、明るくなった」など感謝の声が多数届いています。

また、ジーバーFOODの食堂が完成したことにより、「日頃のお昼ご飯が健康的になった」という声も多くいただいております。今後もより多くの若い世代に食事を提供していきます。

結果として当初予定していた、長町の拠点の一角を食堂にする案は変更となりましたが、そこで煮詰めた計画が六丁の目や富谷の食堂へと発展していきました。

また、助成金については、上記2つの食堂の立ち上げ資金として活用させていただきました。



空きテナントを活用



愛情込めた料理



シニアの知恵と経験を生かす



地域の食材を活用

団体からのコメント

宮城県で培ったジーバーFOODの仕組みとビジネスモデルを、全国1718の市町村に広げていくことを目標にしています。日々、深刻化している高齢化の課題に真正面から向き合い、2030年までに目標を達成し、世界が羨む高齢社会を実現します。

財務面についてはどうしても先行投資が大きかった分、苦戦する場面もありましたが、理解のある投資家に支えてもらっています。

人員面については、シニアスタッフは多く集まっているものの、シニアスタッフのコミュニティマネジャーを務める人材がやや不足している状況です。そのため、今後はこの点を強化していきます。

これから、各拠点にコミュニティマネジャーを配置し、あくまでシニアが主役として活躍し続けられる運営を実現していきます。